



パタゴニアのダウン・ジャケットの内部にアクセスする方法

ダウンジャケットは幅広いコンディションにおいて、その重量の割に優れた保温性を発揮します。パタゴ...

作成者: Brittany McCrigler



はじめに

ダウンジャケットは幅広いコンディションにおいて、その重量の割に優れた保温性を発揮します。パタゴニアのダウンジャケットはその多用途性ゆえに、日常の用事から数日間のアルペンクライミングまで、私たちのダウンジャケットには多くの要求があります。このガイドでは、パタゴニアのダウンジャケットの修理が必要と判断した場合に、内部へのアクセスに必要な手順を説明します。パタゴニアのダウンジャケットには数多くのスタイルがあり、それぞれ構造が異なります。

 ツール:

[Seam Ripper](#) (1)

手順 1 — パタゴニアのダウン・ジャケットの内部にアクセスする方法



- ジャケットのジッパーを開けます。
- ① 修理が必要な箇所を確認します。ジャケットに裏地が付いているか、または修理が必要な箇所にバッフルの縫い目がなくジャケットのフロントから離れる場合はこの手順に従ってください。
- ① 修理が必要な箇所に裏地が付いていない場合は、[バッフルの修理方法](#)を参照してください。

手順 2



- 修理が必要な箇所に一番近い縫い目を探します。ここでは裾の縫い目です。
- リッパーを使って丁寧に縫い目をほどきます。

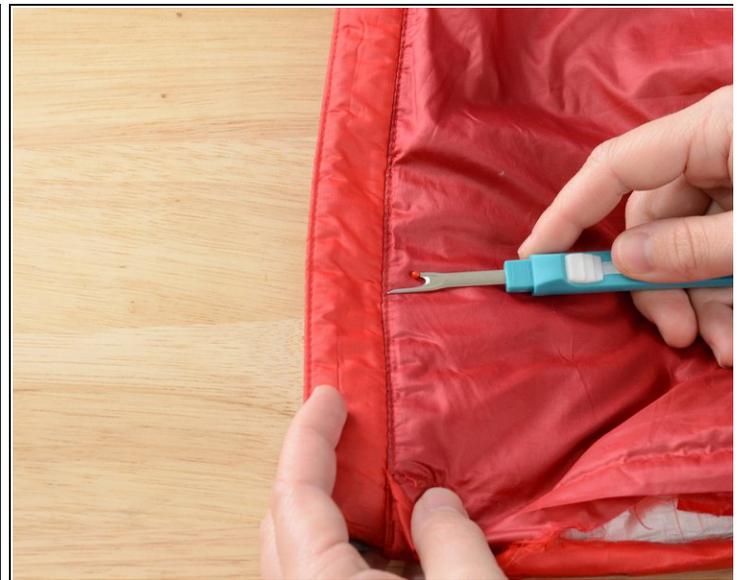
⚠ リッパーの先でジャケットの生地にあけたり生地を裂いたりしないよう十分注意してください。

手順 3



- 穴の両端から数センチずつ縫い目をほどきます。一番近くの垂直な縫い目まで糸を取り除きます。ここではジッパーの縫い目です。
- 縫い目をほどくと内側のバッフル構造が見えます。

手順 4



- 一番近い垂直の縫い目のステッチを確認します。ここでは裏地がジッパーのフラップの生地にあたる箇所です。

手順 5



- 修理が必要な箇所から10センチほど離れた箇所まで縫い目をほどこきます。

① ここではジャケットの身頃の約半分までほどこいています。

手順 6



- リッパーを使って下のステッチを取り除き裏地を離します。

① この手順が不要なジャケットもあります。ステッチを取り除かずに裏地が離れる場合はこの手順を飛ばして次に進んでください。

手順 7



- 生地の中にリッパーを入れ、生地を縫い合わせているステッチを慎重にほどきます。

⚠ 生地を裂かないよう注意してください。

手順 8



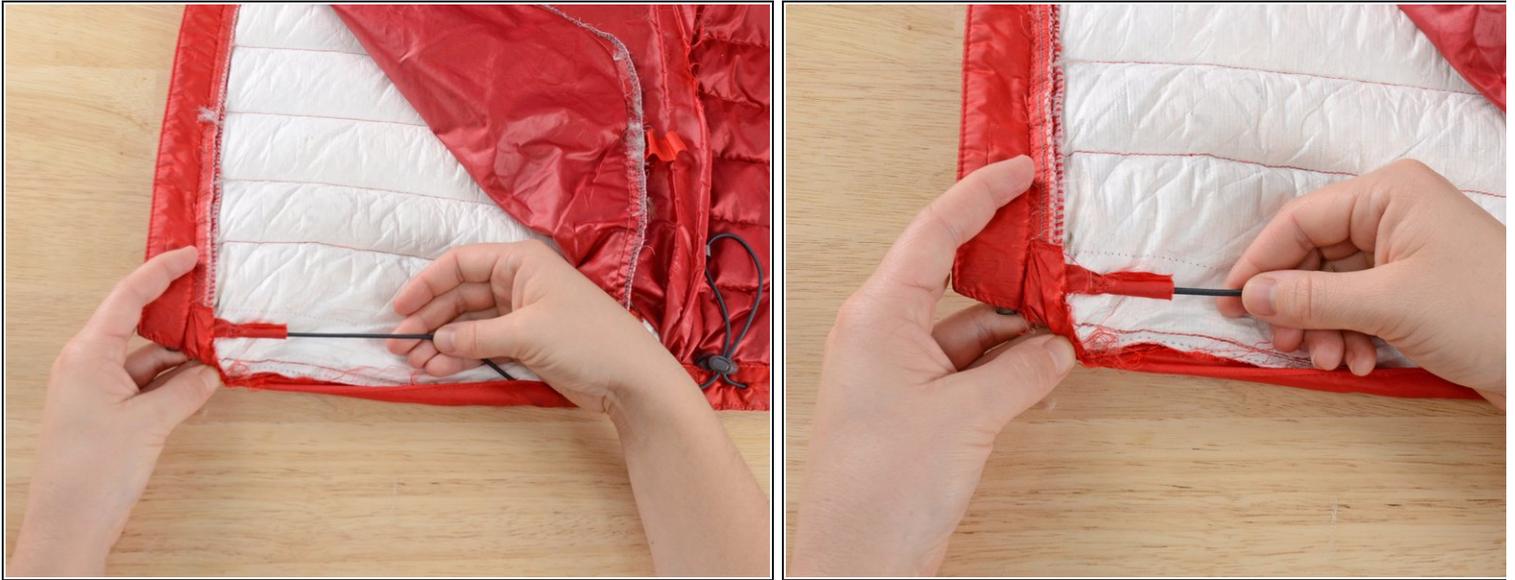
- 修理が必要な箇所のじゃまにならないよう裏地を折り返します。

手順 9



- ポケットが付いている場合は、ポケット袋の位置を決めるタブが固定されていないことを確認します。
 - タブが固定されている場合はタブのステッチをほどいてタブを移動できるようにします。
 - 修理が必要な箇所のじゃまにならないようポケットを折り返します。
- ウェアをもとの状態に戻すとき、ポケット袋の2つのタブが一緒に縫い込まれていることを確認してください。

手順 10



- 修理箇所がウェアの最下部でない限り、ドロコードはそのままにしておきます。ドロコードを避けて修理する方がドロコードを取り除いて再び縫い合わせるよりも簡単です。
- ☑ ジャケットをもとの状態に戻すときは既存の針穴をたどって縫うようにし、穴から余分なダウンが出るのを防ぎます。修理後できればスチーマーやスチームアイロンをあててください。ステッチの針穴がふさがりダウンが出にくくなります。

手順を逆に辿って、ジャケットをもとの状態に戻します。